

はまでら4つのや図書館

2021.9月の新着本より

フンコロガシといしころ
ころころころころうみへいく
クルール・シヴァルツ/ふしみみさを

いしころのジャリーは、海の話聞いてうっとり。「よし、海へ行こう！」と決めますが、いったい、どうやって？そこにやってきたのが、フンコロガシのコロン。ジャリーはフンのかわりに、ころころころがされて海へ…!?できないことなんてない！勇気をもらえる、おかしかったのしいお話。

【翻訳家ふしみみさをさんのコメントより】
マルセイユの小さな本屋にあった絵本を見て、思わず固まってしまった。…(中略)…何から何まで予想外。ツボの連続。そして読んだ後、めっちゃめっちゃいい気分になること、うけあいだ。隅っこまで楽しいので、見返しまでよく見てね！

たべたのだーれだ？(0.1.2 えほん)
たむらしげる

チーズにぽっかりあいた穴。穴から誰かの顔がのぞいています。「チーズをたべたのだーれだ？」ページをめくると、現れたのはねずみの家族。ぶどうの穴からも誰かがのぞいています。「ぶどうをたべたのだーれだ？」ページをめくると、くまの親子が現れました。穴からのぞいているのは誰かなと、想像しながらページをめくると、食べている生きものたちが現れるというしかけになっている穴あき絵本。色鮮やかな食べものをとってもおいしそうに食べる動物たちを見ると、きっと赤ちゃんも一緒につまんで食べたくなりますね。



ありえない！
リック・カール/アーサー・ビナード

カンガルーのおなかから顔を出しているのはだれ？
へびのしっぽはどこいった？
見開きごとに、ちょっと奇妙な組み合わせや、立場が逆転したものが登場。
「ありえない！」と思うことも、見方を変えてみると、もしかするとありえなくもないかも…。
固定観念を打ちやぶる、リック・カールさんの「ありえない！」絵本を、詩人アーサー・ビナードさんが訳しました。



さいがいで かつやくする くるま
こわせもりやす

車の「前面」「背面」、そして「横面」や車と働く人をばっちり見られるシリーズ。

今回は、災害がおこったときにかけてみんなを助けてくれる車が続々と登場します。

《この本にでてくるくるま》
・救助工作車・中型水陸両用車(レド・バスター)・排水ポンプ車・81式自走架柱橋・スーパーアンビュランス(特殊救急車)・給水車・野外炊具 など

くもとそらのえほん
五十嵐美和子/武田康男

きょうのそらのくもは、どんなくもでしょう。大雨をふらせたり、雷をおこしたりする「にゅうどうぐも」綿のようなふわふわの形をしている「わたぐも」飛行機がとおったあとにうまれる「ひこうきぐも」もわもわと青空をかくす「おぼろぐも」羊がたくさん集まっているようにみえる「ひつじぐも」精緻に描かれた美しいイラストとテンポの良い文章で、雲の変化や様子や種類が一目でわかります。空を見上げるのが楽しくなって、親子の会話が弾む絵本！



大事なことは
みーんな猫に教わった
スージー・バッカー/谷川俊太郎

谷川俊太郎さんの名訳で贈るベストセラー絵本がかわいいハードカバーで新装復刊！この本はひよっとしたら、あなたの人生を変えるかもしれません。少なくとも「いねむりする時間くらいはいつでもあるんだ」と気づかせてくれるでしょう。可笑しくて、けっこう深い！家ごもりの達人・猫に学ぶ幸福の方程式。

【谷川俊太郎まえがきより】
私たちが猫から学ぶのは自分勝手に生きる方法です。自分勝手に生きて許されるにはどうすればいいのか、猫はそれを教えてくれます。



くものこポルン
H@L

ぼくはポルン。そらを とべない ふわふわ くものこ。くものなかまが たのしそうに およいでる。とべない ぼくは いつも ひとりぼっち。ある日、ポルンは飛行機につかまって空へ向かいます。しかし…「一緒に遊ぼう！」そんな言葉をかけたくなる絵本です。



グッド・モーニング・トゥー・ユー！
ケニアで障がいのある子どもたちと生きる 公文和子

すべての命は神さまからの美しいギフト
小児科医としてケニアで障がい児支援施設「シロアムの園」を創設した著者。「不幸を招く厄介者」と見られていた子どもたちがニーズに合ったケアと愛情を受けると、その子にも親にも笑顔がこぼれ始めた。黙殺されていた命が輝き始めた瞬間だった。命を値踏みする社会に鋭く問う1冊。著者は、さだまさし氏が設立した「風に立つライオン基金」のきっかけになった。



星落ちて、なお 澤田 瞳子

不世出の絵師、河鍋暁斎が死んだ。残された娘のとよ(暁翠)に対し、腹違いの兄・周三郎は事あるごとに難癖をつけてくる。早くから養子に出されたことを逆恨みしているのかもしれない。暁斎の死によって、これまで河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。兄はもりより、弟の記六は根無し草のような生活にどっぷりつかかり頼りなく、妹のきくは病弱で長く生きられそうもない。河鍋一門の行末はとよの双肩にかかっているのだった……。

父の影に翻弄され、激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。【第165回直木賞受賞作】

だるまちゃんの思い出 遊びの四季
—ふるさとの伝承遊戯考—
かこ さとし

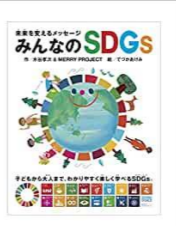
1926年に福井県の小さな町で生まれ7歳まで過ごした。自然豊かな地でのびのびと自由に遊んだ経験をもとに、ごく平凡なこどもの遊びを綴ったエッセイの文庫化。ただ昔を懐かしむものではなく、こども自身がなにを考え、どう感じ、様々な思考と準備を経て、生活や人間関係の悩みや葛藤も抱えながら「遊んでいた」のか……。おとなの目ではなく、こどもの心になって遊びを見つめてきたエッセイ集。本人による「あとがき」「新あとがき」付き。



みんなのSDGs 未来を変えるメッセージ
水谷孝次&MERRY PROJECT/てづかあけみ

みんなの行動で未来は変わる
2030年、あなたがいる地球はどうなっていますか。
環境・教育・医療・食料・経済・人権・労働 など…

今、地球では様々な問題が起こっています。あなたの未来を、地球の未来を想像してみよう。どんなアクションをしたら、未来のみんなが笑顔になるだろう。笑顔いっぱい地球にするために、今あなたにできることは何ですか。今話題のキーワード「SDGs」を世界的なアーティストによるメッセージブックで紹介。みんなが笑顔になるメリープロジェクトを通して「地球の未来のためにできること」を、こどもからおとなまで、わかりやすく楽しく学べます。



風は西から 村山 由佳

過労自死……。決して、彼が弱かったのではない。ではなぜ、彼は死ななければならなかったのか？答えを探して、大企業を相手にした戦いが始まる。大手居酒屋チェーン「山背」に就職し、繁盛店の店長となり、張り切って働いていた健介が、突然自ら命を絶ってしまった。恋人の千秋は自分を責めた——なぜ、彼の辛さを分かってあげられなかったのか。なぜ、彼からの「最後」の電話に心ない言葉を言ってしまったのか。悲しみにくれないながらも、健介の自殺の真相を突き止めるため彼の両親とともに、大企業を相手に戦うことを誓う。小さな人間が秘めている「強さ」を描く社会派エンターテインメント。